

大学・高専機能強化支援事業
令和6年度現地調査報告書

大学・高専機能強化支援事業選定委員会

調査日	令和6年11月21日(木)	区分	支援2大学(一般枠)
選定年度	令和5年度	大学名	信州大学
設置等組織名	<修士>大学院総合理工学研究科工学専攻情報数理・融合システム分野	設置・定員増員年度	<修士>大学院総合理工学研究科工学専攻情報数理・融合システム分野(R6設置)
事業計画名	信州大学 大学院総合理工学研究科 修士課程 工学専攻 情報系エキスパート人材育成		

1. 進捗状況の概要
<p>(1) 事業計画の具体的な取組の進捗状況 事業計画が概ね計画通り進捗していることが確認できた。</p> <p>(2) 好事例や把握された事業の成果 ・包括連携協定企業や地域企業との共同研究講座の実施、工学部と地域企業による工学教育寄附講座の展開等を進めている。また、信州DX推進コンソーシアムによる地域DXの実現や人材育成に向けた連携体制を構築し、自治体等とも連携して企業と地域人材育成プロジェクトを展開している。</p> <p>・長野市等と協働による小中学生対象のAIプログラミングコンテストや長野県内高校における探究活動に参画すること等により初等中等教育段階の学校との連携を充実させており、工学部と教育学部が連携した次世代人材育成事業等、初等中等教育機関と連携した人材育成の取組を継続して行っている。</p>
2. 指摘事項(留意事項・参考意見)
<p>(参考意見)</p> <p>・産学官の連携に前向きに取り組んでおり、実装分野において様々な企業と連携を行っていることから、企業との連携における社会のニーズを組み込んだデータを扱っていく等の活動をより発展させていくことで、求められる人材像を意識した学生の人材育成につながることに期待したい。</p> <p>・情報数理・融合システム分野を基盤として、工学系だけではなく、理学分野を始め、他の多様な分野との連携を深め、多くのデジタル・グリーン等の成長分野を牽引する人材を養成していくことに期待したい。</p> <p>・基礎的な知識及び技能については大学を出てしまうと、学ぶ機会が無くなってしまいますので、学生にはもう少し基礎的な部分を学ばせて伸ばしていてもよいのではないか。それが後に役立つことを教えることも大学の役割であると考えられる。</p> <p>・電源不足等の施設・設備の整備状況を改善することによって、情報系分野で学ぶ学生にとっての学習環境をより魅力あるものとするのができるのではないかと。</p> <p>・女子学生の入学者について女子枠を設定する等、様々な施策を行っているが、企業において理工系女性の採用意欲は非常に高いので、供給を増やす観点からも更なる工夫によって女子学生の割合を増やしていただきたい。</p> <p>・補助金によって始めた事業について、自立・自走ができるように持続可能な形での大学と企業との連携を今から準備していくことを検討していただきたい。</p>